

計 | 雨 | 晴



「この度は本商品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。日本銀行において厳重なる品質検査を致しましたところ多少古い型ではあります。が、十分結婚生活に耐えうる」とが証明されましたので、「ここにその品質を保証いたします。しかしながら、何分本品は製造後かなりの期間本格使用をいたしておりませので、故障することもあるかと存じます。その際は決してたたいたりけ

たりせず、優しくなでていただくか、お酒の一本も注いでください。必ずやまた、元氣良く働き出します。大切に使用くだされば、一生

### 品質保証書

ご愛用いただけるものと確信いたします。なお、お買い上げ後、本品に重大なる欠陥が判明した場合でも返品には応じかねますので、あらかじめ申し添えます。これは、先週友人K氏の結婚式での私の祝辞（余興？）であ

る（これを紙に書き置かず、なつ印し「品質保証書」として新婦に進呈）。厳肅であるべき結婚式の祝辞としては不穩当だったかもしれないが、四十三歳にして一回りも若い新婦をめぐったK氏に対し、限らない祝福とせんと望を込めて私なりに贈ったはなむけの言葉である（実は、こ

の年で友人として祝辞を述べるとは思ってもみなかったための困った末の苦肉の策）。K氏のケースは世間常識からすれば、かなりの晩婚である。しかし、年齢もその形態も多様化している現代では、結婚した時がその人の適齢期と考えて

平山 征夫 (日本銀行 新潟支店 支店長)

良いのではないか。早婚で苦勞しながら夫婦関係をつくり上げていくもよし、晩婚で初めから大人同士の落ち着いた夫婦関係でいくもよし、人生八十年の長寿時代、現役をリタイアするころを考えれば、両者にあまり大きな差異はないのでは…。

さすがに「前途有望な青年…」とか「未熟な一人に」支援を…といった決まり文句は全く聞かれなかったし、私以上に不穩当な祝辞（本人の名譽のため省略する）が相次ぐ異例の式ではあったが、妙に考えさせられる式であった。ともかく、晩婚に幸あれ、と祈ろう。

なお、この余興を使用なさりたい方は、当方の許可はとくに要しませんので念のため。

「晴雨計・その後」⑦

「品質保証書」

平山征夫

二十四年前私が品質保証したK氏は、現在は高校一年生から大学四年生までの三人の父親になっている。その点からすれば私の品質保証は正しかったことになる。結婚直後私に「基礎体温計って何ですか。使ったほうがよいですか？」などと頼りないことを言っていた割には立派だ。この間、どの位故障したか聴いていないが、多分保証書通り奥さんが上手に相手されたのだろう。

「自由にお使い下さい」と書いたが、結果的にこの品質保証書

の使用許可を申し出たのは二人だけだった。同じ結婚式に出いた人とこの随筆を読んだ人だ。この保証書もここまで晩婚化が進んでしまった現在では、「旧式ですが・・」と言って品質保証する面白さはもはや無い。私のこのアイデアも過去のものだ。非婚化が少子化の大きな要因となっている現状は本当に深刻で、かつての実質仲人役を果たした「世話好き」の近所のおばさんが必要と思うこともあるが、良く考えてみるとこのおばさんたちは「お似合いの良い方がいますが・・」と品質保証をしていたのだ。

恋愛結婚が主流になってすっかり世話好き（目利き？）おばさんの出番は減ってしまったし、恋

愛のチャンスに恵まれない人のためにデータでお似合いの相手を選び出す結婚相談所などもあがるが、品質保証の精度はどのくらいなのだろうか？人口減少問題については、いずれ私見を述べようと思っているが、我が家に八月下旬に初孫が誕生した。特殊合計出生率ではまだまだ足りないが若干人口問題に貢献出来たと喜んでいる。それ以上に二人の娘に嫌われながら「何時孫の顔を見せてくれるのか。見せてくれないなら自分で孫をつくるぞ？」などと言っていた私はもう嬉しくてしょうがない。

品質保証のついでに言えば最近の政治を見ていて、政治家の品質保証を望みたい気になってい

る。今、国会をじっと聴いていて政治の中で最も重要な安保論議のレベルが担当大臣の答弁レベルを含めて余りに低すぎたからだ。

ところで二十四年前には「私以上に不穏当な祝辞が相次ぐ異例の式だった」としか書けなかったがもう時効だろう。この式では友人の祝辞で新郎のかつての彼女の名前が複数暴露されたのだ。皆「エツ」という感じだったが、最前列にいた私には新郎の隣の人さんが「白を切り通せ！」と小声で言ったのが聞こえた。その仲人さんは新潟市でも著名な弁護士さんだった。

（平成二十七年九月三十日）